「仕事人秘録」に見るキャリア選択

山田　篤司

（受領日：2024 年 5 月 31 日）

高知工科大学経済・マネジメント学群
〒 780-8515　高知県高知市永国寺町 2 番 22 号

E-mail: yamada.atsushi@kochi-tech.ac.jp

要約: 本稿は、日経産業新聞に連載された「仕事人秘録」の 2018 年以降の登壇者 53 名について、そのキャリア選択を考察するものである。登壇者のほとんどは経営者である。そこでその出自をタイプとして、創業型、承継型、昇進型、転進型、プロ経営者と分類し、エキスパートとして活躍した場合を専門職、スポーツ家、芸術家、研究者に分類した。中心の年代は 60 代で、学歴はほとんどが大卒以上である。ファーストキャリアの選択では、分類にかかわらずほぼ全員が被雇用者を選択している。また、少数を除き、最初から堅固な人生設計のもとキャリアを選択しているわけではない。1/3 以上のケースでキャリアの途中でキャリアチェンジがなく、長く勤めて昇進型の経営者になるケースが多い。このパターンは今でも優等生的人生である可能性がある。承継型として家業を引き継いだ場合でも、企業の成長のためには途中でキャリアチェンジと同じ大変革が必要である。この点では創業型が創業のチャンスを掴むことと同様である。いずれのタイプでも偶然の出会いを増やし、チャンスを掴む力量を磨くことが成功の秘訣であるといえる。

1. はじめに

本稿は、日経産業新聞[1]に連載された「仕事人秘録」の登壇者について、そのキャリア選択を考察するものである。「仕事人秘録」は 2001 年 5 月から 2024 年 1 月まで、「企業経営者やビジネスの現場で実績を上げた企業人などに隠れたエピソード、体験談を語ってもらう」をコンセプト[2]として主に産業人が数十回に渡り経歴を語ったものである。ほとんどは自らの筆によるものだが、一部は語り言葉を記者が採録したものがある。いずれの連載も出自も含めた来歴が語られており、波瀾万丈の人生は産業史的にも価値がある。

同様の連載には日本経済新聞の「私の履歴書」がある。こちらは 1950 年代から連載されており、産業人だけでなく芸術家、作家、俳優、学者など幅広く功績を残した方々が取り上げられている。これを題材にした最近の研究には、稲垣恭子・濱貴子（2013）[3]がある。文章中に出てくる師弟関係に着目した分析で、キャリア選択に際して、師が果たす役割や重みを記述量で分析を行ったものである。この中では、掲載時期が 1970 年代後半を境に師の記述が減少することが示唆されており、キャリア選択における師の役割が時代とともに薄れるのではないかと指摘している。企業経営者の来歴の研究では、磯部卓三（1978）[4]、鳥羽欽一郎（1987）[5]がある。前者は、経営者に絞ったうえで、創業型経営者と被雇用型経営者に分けて、それらを定性的に分析したものであり、後者は経営者の出自、動機、学歴の関係を時代ごとに分析したものである。いずれも功成り名を遂げた経営者に関する研究であるが、時代が古いことは否めない。「私の履歴書」は、現役の経営者というよりも、一時代を築き上げた功労者の自伝という位置づけで、執筆時点ではすでに引退しているケースが多く、執筆者のほとんどは高齢である。どちらの先行研究も、執筆者の生年は明治時代から大正初期で、現代からすると隔世の感がある。

そこで最近の傾向と現役世代に近い体験談を探る

ために、題材を日経産業新聞の「仕事人秘録」にもとめ、社会に出たときの職業選択のきっかけと、社会的な実績を上げるに至ったキャリア選択のきっかけについて考察することとした。近年、多様なキャリア選択がある中で、先輩諸氏がどのようなきっかけでキャリアを選択してきたか、これから社会に巣立つ若者への指針となるのではないかと考える。

2. 分析方法

分析の対象としたのは、2018 年以降に登壇した 53 名である。各登壇者は数十回の連載を記しており、その内容には職業選択だけでなく、実績を上げるに至る道のりの苦労と工夫が満載されている。その内容は奥深く、興味のつきない物語を含むところ、本稿の目的に沿う項目を抜き出したものが、表 1 ～ 4 である。実際の物語は複雑であり、一言ではいい表せない事情も縷々あるが、今回は全体を把握することを目的として思い切って捨象した。各項目は、以下の通りであるが、新聞記事中に記載が無い事項は、生年など客観的な事実について企業 HP などを参照した。

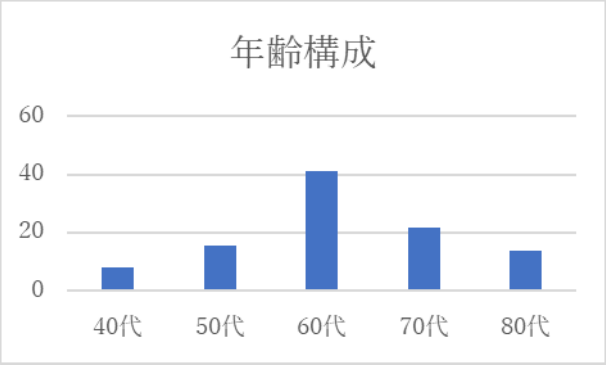
「タイトル」は、各自の人生を一言で表したものであると想像される。本稿の目的には直接には必要は無いが、内容を見るとその半生をよく表している。登壇者の思いが詰まっていると考え、記載した。タイトルで来歴に興味がわく場合もあると思うが、その場合は新聞記事を参照されたい。「氏名」「生年」のうち生まれ年は、年齢を非公開としている登壇者がおり、その場合は不詳とした。「掲載時の年齢」は、可能な限り誕生月日と掲載月日を考慮して算出した。しかし月日まで分からない例もあり、1 年の範囲で誤差があることは考えられる。「掲載時の肩書」は、記事のままとした。したがって、「主な業績」とは一致しない場合がある。例えば主な業績が、ある企業における活躍であっても、執筆時に関連会社に異動していれば、肩書きは関連会社のものとなる。この場合は、関連会社に異動する前の功績について、「主な業績」の欄に記した。これは本文の中で筆者が拾って作成したもので、この連載に登壇するに至った主な理由である。一言で表すことは難しいケースもあるが、理解の便宜のためにあえて一言にまとめた。「最終学歴」は可能な限り学校名まで記載した。「最初の職業」はどのようなきっかけでキャリアの第一歩を選択したかを知るため、職業名とともにその「きっかけ」を筆者が本文から拾って作成した。さらに、それを「自己選択」したか、「他者由来」のきっかけがあったか、家業に由来した「家業関連」のものかに分類した。さらに、キャリアを積む過程で転進している場合は、そのきっかけとその内容を「キャリアチェンジ」として記載した。「タイプ」は、登壇者の人生がどの分類になるかを記載したものである。登壇者は、取締役を含めてほとんどが経営者である。したがって経営者という分類よりもどういう立場で経営者となったか、という点に着目した方が分類として機能する。そこで経営者を「創業型」、「承継型」、「昇進型」、「転進型」、「プロ経営者」に分類し、経営者としてよりも特定の分野のエキスパートとして活躍した場合を「専門職」、「スポーツ家」、「芸術家」、「研究者」とした。専門職や芸術家であっても、経営者である例は多い。例えば、研究者として、画期的な発見や発明をした後に商品化のため起業したケースや、専門職であっても、企業を構えて仕事をするケースもある。ほとんどの登壇者は多面的な顔を持つもので、一言でまとめるのは困難な例もある。しかしどのような立場で地位を確立したのかに着目して、最もふさわしい顔を際立たせることとした。したがって、複数のタイプに該当する場合でも、あえて一つのタイプに分類した。

3. 考察

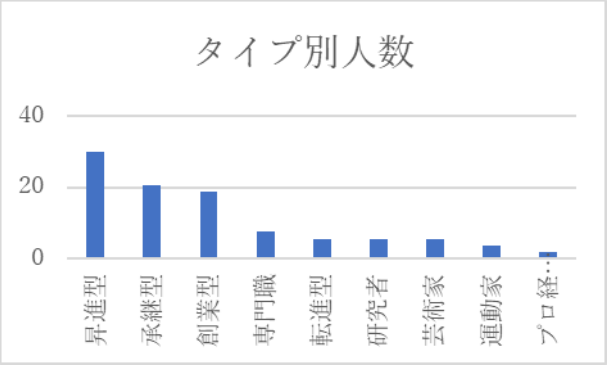
登壇者の記事掲載時の年齢は、44 歳から 88 歳と幅が広い。最も多い年代は 60 代で 40％以上を占める。平均は 67 歳である。同時に 80 代も 10％以上を占めている。グラフ 1 に年齢別の割合を記載してある。60 代が中心ということから、価値ある実績を上げるためにはある程度の年数が必要であることを示唆している。一方で 40 代から実績を上げる例もあり、世代全体の若返りの可能性が感じられる。

学歴は、大卒以上がほとんどであるが、その中で株式会社ハマキョウレックス会長の大須賀正孝氏は、中卒で創業しプライム市場上場まで導いた。一貫して物流事業に携わって事業を拡大し、数々の経済ショックも乗り越えて企業を成長させた努力と能力には脱帽である。創業に学歴は関係ないとはいえ、創業型であってもほとんどは大卒である。また昇進型の場合は 100％大卒以上である。2023 年度大学進学率は 60％弱と発表されており、大学進学は産業界で活躍する前提となっていると考えられる。

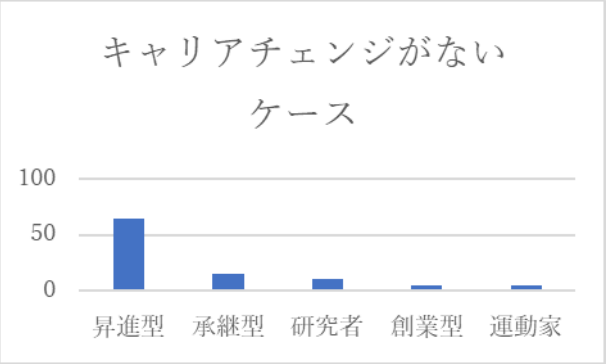
最初の就業先であるファーストキャリアでは、ほとんどの登壇者は家業を含めて企業に雇用されることを選択していて、最初から創業を選択する例は稀である。また就職先の選択では、自ら就職先を選択した例が最も多く、半数が自らの選択である。例え



グラフ 1



グラフ 2



グラフ 3

ば USJ の再建で名をはせた森岡毅氏は、大学の恩師から、「経営者へのルートは営業、ファイナンス、マーケティングの 3 つが有力だ」と教わり、当初から経営者となるために、マーケティングができる会社を選択している。また、ひかり味噌株式会社社長の林善博氏は、「海外の仕事ができる企業ならどこでも」という理由で、商社、メーカー、銀行などを回っている。しかし、そのような明確な選択肢をもってキャリアを選択したケースは稀で、それ以外は消去型、就職活動に出遅れて、ほかに選択肢がない、など消極的な理由で選択している。残りの半数のうち半分は、他者由来の理由で選択をしており、先輩や親族の誘い、紹介、勧めなどで企業を選んでいる。残りの半分は、家業または家業に関連した就職先である。以上から見ると、一部を除いて、ファーストキャリアは偶然が左右している面が多く、必ずしも最初から堅固な人生設計が必要とは、言えない。

タイプ別では、グラフ 2 にあるとおり昇進型が 30％を占める。次いで家業の承継と創業したケースがそれぞれ 20％程度を占める。家業を承継したといっても、そのままの形で大きくする例はなく、実質的には第二の創業といえる大変革や新規分野での成功が大半を占める。ミサワホーム株式会社を創業した三沢千代治氏は、三沢木材という家業があったが、その中でミサワホームというプレハブ住宅を始めたし、斉藤寛氏は、家業のぶどう農園を継いだが、弟の創業した焼き菓子店を引き継ぐ形でシャトレーゼ HD を創業した。土台である家業があれば、当初の立ち上げに苦労は少ない可能性はあるが、家業が創業に有利とは限らず、ゼロからの創業と同じ苦労とアイデアが必要であろう。むしろ襟川陽一氏のように、父から請われて家業を継いだものの、すぐに行き詰まり整理から始まる場合もある。

興味深いのは、1/3 以上のケースでファーストキャリアのあとにキャリアチェンジがないことである。グラフ 3 にあるとおり、そのほとんどは昇進型で 65％を占める。またその中では、ファーストキャリアを自主選択したケースの方が過半を占める。このことを勘案すると、最初に就職する企業を自らが選択し、長く勤めて昇進型の経営者になる、という例が多いといえる。同様に研究者もそのパターンが多く、自主的に研究テーマに沿ったファーストキャリアを選択してそのまま研究を続けるケースが多い。

運動家や芸術家など、一芸に秀でていてそれを職業にできるケースは狭き門ではあるが、幸せな人生であろう。才能もさることながら、それを活かせる人並みならぬ努力をしたものだけが獲得できるキャリアであると考えられる。

4. まとめ

以上のとおり、企業人を中心にそのキャリア選択を見てきた。その中でいくつかの示唆があり、それを昇進型の場合、承継型と創業型との比較、キャリアチェンジの観点からまとめる。結論としては、偶然の出会いを増やし、チャンスを掴む力量を磨くことが成功の秘訣であるといえる。

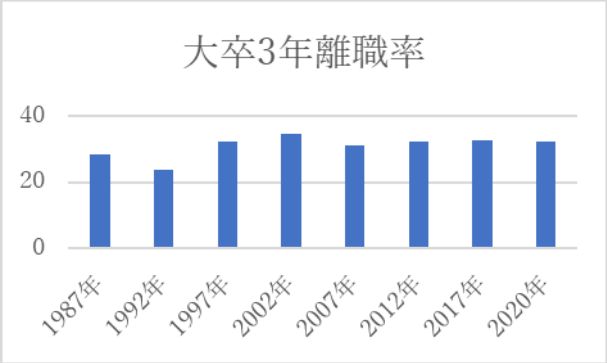
登壇者の中では、昇進型の経営者が一番多く 30％以上を占める。そしてその中の多くは途中のキャリアチェンジはなく、新卒で入社した企業一筋で昇進している。もっとも、そのファーストキャリアの選

択としては、偶然によるものが多い。むしろ何かを目指していると、それに向けてキャリアチェンジを図ることになりがちで、偶然に身を任せつつ努力するほうがその道に至りやすいとも考えられる。

この傾向は、今回の登壇者の中心が60代であることとも関係している可能性はある。この年代が社会に出た頃は、1975～1990年頃であり、まだ高度成長期の余韻が続いていた時期でもあった。就職＝就社と考えられていた時代で、キャリア形成は会社が計画するもの、と考えられていた時代でもあった。現代でこそ、キャリア自律[6]の重要性が強調されているが、当時はキャリア自律という言葉さえ存在しなかった。偶然に新卒で入社した会社で、人並みならぬ努力により出世を遂げ、能力と強運を備えたものが最後に社長の座につく、というストーリーは当時の優等生的人生だったともいえる。一方で、グラフ4にもあるとおり、当時でも大卒の3年離職率は今とさほど変わらず3割に近い。若者が企業に定着しなくなったのは今に始まったことではないともいえる。とすると、今でも新卒入社で内部昇進し、経営者までたどり着くというキャリアは十分に考えられる。今回の登壇者の中にはプロ経営者といえる経歴の持ち主は1名だけであったが、今後プロ経営者に経営を託す企業がどの程度増えてくるか、今まで通り内部昇進が続くのか、今後の課題であろう。

昇進型以外では、家業を継ぐ形で企業を成長させたケースと、まったくのゼロから創業して成長したケースがある。承継型の場合はキャリア選択の余地がないように思える。しかし、承継型であっても、家業を従来同様の方法で成長させることは難しく、なんらかの大変革または新規事業を行っている。その点では創業型と変わりはない。同じ経営者というキャリアであっても扱う品目が違えば、異なった知識と環境が必要になる。家業にたいして、どのような大変革を行ったか、どのような分野に進出したか、は今般の研究内容には含まれないが、特段の法則はなく偶然の出会いであろう。その点では創業型の場合に、どのような事業で創業するかも同様である。したがってここでも偶然の出会い、チャンスの掴む力量は大事である。

先に、1/3のケースでキャリアチェンジをしなかったと述べたが、逆に言えば2/3は何らかのキャリアチェンジをしている。その原因は、出向、誘われて、ヘッドハント、スカウト、プレゼントなど他者からの働きかけが多い。中には勤め先の経営不振や父親の死などネガティブなきかっけもあるものの、総じて偶然の賜物であるといえる。もちろん偶然を活かす知恵と能力は必要である。しかしキャリアチェンジ自体は、偶然がきっかけであるといえる。



グラフ4　厚生労働省HPより筆者作成

5. 今後に向けて

本研究は、自分の進路や就職志望先が決まらず悩んでいる学生に向けて、キャリア選択に対して何か参考になる示唆が得られないかと考えて、「仕事人秘録」を眺め始めたことが端緒であった。特筆すべき秘訣はなかったが、普段から偶然の出会いを増やすこと、チャンスの女神には後ろ髪がないことを頭に置いて行動することの正しさの証左にはなった。

「仕事人秘録」には、今回取り上げていない2001年からの100名以上の登壇者が存在する。過去に遡ることの是非はともかく、サンプル数を増やすことは、統計的な処理には意味があることであろう。また今回は、女性の登壇者がいなかった。今後は男女雇用機会均等法から約40年が経過し、今後は女性の活躍も当然のように見られるようになるだろう。「仕事人秘録」はすでに無くなったが、そのほかの媒体で女性の活躍を目にするはずだ。その際に男女間に特徴的な違いがあるかは、今後の課題である。

タイトル	氏名	生年	掲載時の年齢	掲載年	掲載時の肩書※1	主な実績	最終学歴	最初の職業	きっかけ	分類	キャリアチェンジ	タイプ
生涯ゲームクリエーター	襟川陽一	1950	67	2018	コーエーテクモHD社長	ゲームクリエイター	慶大学商卒	明成商会	家業の仕入れ先	家業関連	PCをプレゼントされてゲーム作り。「川中島の合戦」がヒット。	専門職
愛編む発明家	島正博	1937	80	2018	島精機製作所会長	手袋編機の自動化	和歌山工業高卒	池永製作所	近所の機械加工会社	他者由来	中学生のころから機械に触れ高校生で特許を出願	創業型
格闘人生腹いっぱい	天龍源一郎	1950	68	2018	元プロレスラー	角界からプロレス界入り	中学卒	大相撲	スカウト	他者由来	角界の事件の後、ジャイアント馬場に誘われた	運動家
再生エネの伝道師	鈴木悌介	1955	63	2018	鈴廣かまぼこグループ副社長	米国事業に参入	上智大経卒	鈴廣	家業	家業関連	父親の死で、兄とともに日本の事業に専念	承継型
未完の半導体経営	坂本幸雄※2	1947	70	2018	元エルピーダメモリ社長	半導体事業一筋	日体大卒	日本テキサス・インツルメンツ	義兄に誘われた	他者由来	UMCジャパンを再建し、再建請負人としてエルピーダメモリ社長へ	昇進型
ストーンズを連れてきた男	北谷賢司	不詳※3	不詳	2018	金沢工大院教授兼AEG上級副社長	エンタメ業界の伝説の仕掛け人	ウィスコンシン大院卒、博士	ワシントン州立大学助教授	留学先で採用された	他者由来	ソニー出井社長にスカウトされた	専門職
アニソンブームを越えて	井上俊次	1960	58	2018	バンダイナムコアーツ副社長	アニソンブームの立役者	大和川高校	ロックバンド「レイジー」	誘われた	他者由来	アニメ業界のレコード会社を創業、のちにバンダイナムコと合併	芸術家
知つなぐ連続起業家	東英弥	1952	59	2018	宣伝会議会長	広告代理店創業から大学新設へ	日大法卒	日本リクルートセンター	就職に出遅れて	自主選択	連続企業家。創業のころから大学を作ろうと思っていた	創業型
ヒット生むナムコのDNA	石川祝男	1955	63	2018	バンダイナムコHD顧問	バンダイナムコ社長会長を歴任	関西大文卒	ナムコ（現バンダイナムコ）入社	遊びが仕事になるのはいいな	自主選択	なし	昇進型
ワイヤレス通信にかける	小林忠男	1949	69	2018	無線ＬＡＮビジネス推進連絡会顧問	無線LANの普及に生涯を捧げた	早大理工卒	日本電信電話公社	電電公社は面接と作文だけ	自主選択	NTTブロードバンドプラットフォーム社長を経て	昇進型
四角い豆腐をまあるく	鳥越淳司	1974	44	2018	相模屋食料社長	15年で売上げ8倍	早大商卒	雪印乳業	銀行、商社は無理。食品なら合っている	自主選択	雪印の不祥事をきっかけに、妻の父親が経営していた豆相模屋食料へ	転進型
MISOで世界を味付ける	林善博	1960	58	2019	ひかり味噌社長	8年連続で過去最高を更新	慶大法卒	信州精器（現セイコーエプソン）	海外の仕事ができる企業	自主選択	父親の要請と祖父の他界をきっかけにひかり味噌に入社	転進型
遊び心でマーケティング	セオドール・ミラー	1971	48	2019	エンパイア・エンターテインメント・ジャパン社長	イベントやCM、マーケティングの仕掛け人	ニューヨーク大卒	電通	日本企業で本格的に働きたい	自主選択	ゲートウェイを経て、2005年に創業	創業型
対話力で現場をカイゼン	伊原保守	1951	67	2019	アイシン精機相談役	トヨタ自動車副社長	京大法卒	トヨタ自動車販売	大学の先輩の誘い、高給だった	他者由来	なし	昇進型

※1 社名は（株）を省略、英語名は日本語に変更　※2 故人　※3 年齢非公開

表1

タイトル	氏名	生年	掲載時の年齢	掲載年	掲載時の肩書※1	主な実績	最終学歴	最初の職業	きっかけ	分類	キャリアチェンジ	タイプ
行列のできる経営相談所	小出宗昭	1959	59	2019	富士市産業支援センター長	「ご当地 Biz」の創始者	法政大経営卒	静岡銀行	両親のすすめで地元の銀行へ	他者由来	静岡県中部地区 SOHO 推進協議会への出向	専門職
プロレスの魅力に国境なし	ハロルド・J・メイ	1963	55	2019	新日本プロレス社長	ブランド構築などマーケッティングに精通	ニューヨーク大院卒	ハイネケンジャパン	英語と日本語を武器に日本法人にアプローチ	自主選択	日本リーバ、日本コカコーラ副社長、タカラトミー社長を歴任	プロ経営者
日仏を駆けるパピヨン	ドラ・トーザン	不詳※3	不詳	2019	エッセイスト	ＮＨＫ「フランス語会話」出演	パリ政治学院	ニューヨークの国連本部	国際機関で働きたい	自主選択	東京とパリを自由に行き来して「好きなこと」を仕事にする	芸術家
ベアリングで地球を回す	朝香聖一※2	1942	76	2019	日本精工名誉顧問	国内最大手、世界シェア 3 位	慶大経卒	日本精工	金勘定は苦手、部品に興味	自主選択	なし	昇進型
1 ミリの線虫人類を救う	広津崇亮	1972	47	2019	HIROTSU バイオサイエンス社長	線虫によるがん検査の普及	東大院卒 理学博士	サントリー	視野を広げるため	自主選択	1 年で研究に戻り、2016 年ベンチャー企業を立ち上げた	研究者
他人の走らぬ道走る	渡辺邦幸	1949	70	2019	河西工業社長	構造改革と後継者育成	名大工卒	日産自動車	トヨタ、日産、マツダから選んだ	自主選択	ゴーン会長と衝突	昇進型
翼の生えた鉄道マン	山中諄	1943	76	2020	南海電気鉄道特別顧問	関空と共に歩んできた	立命館大経卒	南海電気鉄道	親子 2 代の鉄道マン	他者由来	なし	昇進型
しなやかに動き回れ	津田純嗣	1951	68	2020	安川電機会長	米国駐在などで「稼げるグローバル化」	東工大工卒	安川電機製作所	隣の研究室が縁	他者由来	なし	昇進型
はやぶさの挑戦は続く	川口淳一郎	1955	64	2020	JAWA シニアフェロー	「はやぶさ」プロジェクトマネージャ	東大院卒 工学博士	宇宙航空研究所助手	学生からそのまま助手に採用	自主選択	なし	研究者
マーケティングで日本再興	森岡毅	1972	47	2020	刀代表取締役	USJ で CMO	神戸大経営卒	P&G	経営者へのルートとしてマーケッティングができる会社	自主選択	USJ の経営再建のためヘッドハントされた	専門職
三つの公で家づくり	土屋公三	1941	79	2020	土屋ＨＤ創業者	住宅メーカーの土屋 HD を創業	商業高校卒	聯合紙器	先生のすすめ	他者由来	歩合給の不動産営業を経て、25 歳のときに独立	創業型
宝の山を創り出せ	中島浩一	1952	68	2020	銘建工業社長	ＣＬＴ（直交集成板）の普及	横浜市立大文理卒	銘建工業	家業	家業関連	教師志望だったが父親の誘いで	承継型
信濃の国の発明翁	柳澤源内	1932	88	2020	エンジニアリングシステム会長	独創的なアイデアの新製品	早大理工卒	大東製機	車の時代が来る	自主選択	富士自動車を経てエンジニアリングシステム創業	創業型
再生建築で負動産に挑む	青木茂	1948	72	2021	青木茂建築工房代表	再生手法「リファイニング建築」	近大工卒、東大院卒、工学博士	鉄建建設	大学卒業後就職	他者由来	家業を手伝ったが飛び出して代願の仕事を始めた	創業型

※1 社名は（株）を省略、英語名は日本語に変更　※2 故人　※3 年齢非公開

表 2

タイトル	氏名	生年	掲載時の年齢	掲載年	掲載時の肩書※1	主な実績	最終学歴	最初の職業	きっかけ	分類	キャリアチェンジ	タイプ
夢を力に究め極める	碓井稔	1955	65	2021	セイコーエプソン会長	インクジェットの新方式、プリンターの父	東大工卒	（ブリヂストンに半年）、信州精器	地元に帰る	自主選択	なし	昇進型
今日も生涯の一日なり	三沢千代治	1938	83	2021	ミサワホーム創業者	木質パネル接着工法を事業化	日大工卒	三沢木材	家業	家業関連	家業でプレハブ住宅事業部で創業	承継型
イノベーション生む国へ	久間和生	1949	71	2021	農研機構理事長	三菱電機で半導体デバイスをイノベーション	東工大工卒 工学博士	三菱電機	三菱グループは人に優しいという評判で	自主選択	なし	研究者
三つの喜で拓く	斉藤寛	1934	87	2021	シャトレーゼホールディングス会長	格安スイーツで年商500億円	日川高校卒	家業のぶどう農園を継いだ	果樹園芸試験場で勉強	家業関連	弟の焼き菓子店「甘太郎」を引き継いだ	承継型
潰れてたまるか	川島敦	1959	62	2021	ケネディクス顧問	不動産ファンド運用会社を再建	東大工卒	三菱商事	都市開発に携われる	自主選択	安田信託銀行を経て、ケネディ・ウィルソン・ジャパンに誘われた	転進型
若者よ大志を抱け	大坂靖彦	1944	77	2021	大坂塾塾長	ケーズHD元常務	上智大卒	松下電器産業	家業が電器店だった	家業関連	家業を経てケーズHDと提携	承継型
工作機械で未来を開く	花木義麿	1942	79	2022	オークマ相談役	工作機械の数値制御装置の内製化	名大工卒	大隈鐵工所	就職に出遅れてやむなく	自主選択	なし	昇進型
震災を乗り越えて先へ	菅原昭彦	1961	61	2022	男山本店社長	東日本大震災からの復活	成蹊大法卒	男山本店	家業	家業関連	なし	承継型
直言居士の野球人生	田尾安志	1954	68	2022	野球解説者	野球一筋	同志社大卒	中日ドラゴンズ	ドラフト1位	自主選択	なし	運動家
ワークロイドに駆ける	高本陽一	1956	66	2022	テムザック社長	元祖ロボットスタートアップ	神大法卒	東洋運搬機	家業の仕入れ先	家業関連	家業の建機ディーラーを経てロボットを製造	承継型
私は資本市場の冒険家	青木健太郎	1957	65	2022	エピキュール・グループ代表	JTで海外大型M&Aを支援	一橋大商卒	新日本製鉄	不詳	自主選択	証券会社を経てJTで海外M&A、その後エピキュール・グループを創業	昇進型
希少疾患薬をいち早く	芦田信	1943	79	2022	JCRファーマ創業者	日本初のコロナワクチンの製造拠点を整備	甲南大理卒	大五栄養化学	父の紹介	他者由来	勤め先の経営不振でプロジェクトが中止になり、起業	創業型
ＡＩで導くフェアな社会	守本正宏	1966	56	2022	フロンテオ社長	「デジタルフォレンジック」を日本導入	防衛大学校卒	アプライドマテリアルズ	自衛隊援護協会を通じて	他者由来	デジタルフォレンジック（デジタル的な法科学の分野）の普及を狙って創業	創業型
果てしなき旅路	ベルナール・デルマス	1954	68	2022	日本ミシュランタイヤ元会長	来日40年、日本の自動車産業に貢献	HEC経営大院卒	仏ミシュラン	銀行を2日で辞め、ミシュランに入社	自主選択	なし	昇進型

※1 社名は（株）を省略、英語名は日本語に変更　※2 故人　※3 年齢非公開

表3

タイトル	氏名	生年	掲載時の年齢	掲載年	掲載時の肩書※1	主な実績	最終学歴	最初の職業	きっかけ	分類	キャリアチェンジ	タイプ
データは世界の共通言語	小笠原浩	1955	67	2022	安川電機会長	データによるDXに注力	九工大情報工卒	安川電機	関連企業を受けたら安川電機に採用	自主選択	なし	昇進型
「日本最小」の造船再編	木戸浦	1970	53	2023	みらい造船社長	東日本大震災で造船事業者5社が合併	コロンビアカレッジ英語学校	銀座の画廊	大手造船会社にすべて不採用	自主選択	米国事業を経て家業に入社、東日本大震災をきっかけに同業と協業	承継型
裏書きゲーム興亡史	中村俊一	1947	75	2023	アミューズキャピタル社長	セガ専務執行役員兼CFO	関学大文学卒日本CP専門学校	コンピューターサービス	設立2年目の大川功に採用される	自主選択	なし	昇進型
語り部が震災を伝承	阿部憲子	1962	61	2023	南三陸ホテル観洋女将	震災を語る語り部バスを運行	東洋大短期ホテル観光学科卒	南三陸ホテル観洋	家業	家業関連	なし	承継型
「出稼ぎ魂」未来につなぐ	石川則男	1955	67	2023	OSG会長兼CEO	「タップ」で世界シェア30%強	金沢大工卒	OSG	教授から紹介された企業	他者由来	なし	昇進型
ホテルマン半世紀	堤猶二	1942	81	2023	横浜GICホテル会長	ホテルマンとして半世紀	ＵＣＬＡ経営卒	西武百貨店	家業	家業関連	西武百貨店が底部鉄道グループに移籍、ホテル事業を担当	承継型
世界を掘削する	平野耕太郎	1958	65	2023	日立建機会長兼CEO	第2の創業に挑む	中央大法卒	日立建機	業界2位の会社を1位にする	自主選択	なし	昇進型
人の心をサインで結ぶ	川西純市	1967	56	2023	サインデザイナー	東京五輪のメダルをデザイン	大阪芸術大美術学科卒	大阪藝術大学副手	縛られるのがいやで就職せず	自主選択	日本サインデザイン協会から入選	芸術家
人が居て馬が居て	松本好雄	1938	85	2023	きしろ会長	クランク軸加工世界シェア4割	千葉工業大卒	きしろ	家業	家業関連	なし	承継型
「やらまいか」で物流革新	大須賀正孝	1941	82	2023	ハマキョウレックス会長	物流企業の再建請負人	北浜中卒	ダンプカーを1台買って起業	ボクサーの承諾が得られず	自主選択	なし	創業型
和製解析ソフトの挑戦	岡田勉	1957	66	2024	村田製作所・元主席研究員	唯一の和製統合ソフトウエアの開発	早大理工卒	村田製作所	親戚の住む京都の村田製作所	他者由来	なし	昇進型

※1 社名は（株）を省略、英語名は日本語に変更　※2 故人　※3 年齢非公開

表 4

註

1）日経産業新聞は、日本経済新聞社が 1973 年から発刊していた日刊紙であるが、2024 年 3 月に休刊となった。
2）日本経済新聞カスタマーセンターへの問い合わせによるもの。当初、連載は火、水、木曜日だった。
3）稲垣恭子・濱貴子「財界人・文化人の「師弟関係」―『私の履歴書』の分析から―」京都大学大学院教育学研究科紀要 2013，59:1–23
4）磯部卓三「日本之企業経営者の来歴―『私の履歴書』の分析を通じて―」神戸女学院大学研究所『論集』第 24 巻第 3 号 pp.49–71
5）鳥羽欽一郎『日本における企業家・経営者の研究―「私の履歴書」掲載 167 人のサンプルを中心として―』早稲田大学産業経営研究所
6）日経テレコンによると、日本で最初にこの言葉が出たのは 2004 年 7 月の再就職支援事業のための新会社「リクルートキャリアコンサルティング」設立のプレスリリースである。アメリカでは 1980 年代の不況期にリストラによる解雇が行われ、そのころからキャリア自律（Career Self-Reliance）の必要性がいわれ始めたとされる。

文献

1) 「仕事人秘録」日経流通新聞、2018-01-05 から -20、朝刊
2) 稲垣恭子・濱貴子「財界人・文化人の「師弟関係」―『私の履歴書』の分析から―」京都大学大学院教育学研究科紀要 2013，59:1–23
3) 磯部卓三「日本之企業経営者の来歴―『私の履歴書』の分析を通じて―」神戸女学院大学研究所『論集』第 24 巻第 3 号 pp.49–71
4) 鳥羽欽一郎『日本における企業家・経営者の研究―「私の履歴書」掲載 167 人のサンプルを中心として―』早稲田大学産業経営研究所
5) 厚生労働省新規学卒者の離職状況 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html

Career Choice as Seen in the "Confidential Records of a Professional"

Atsushi Yamada

(Received: May 31st, 2024)

School of Engineering, Kochi University of Technology
2-22 Eikokuji, Kochi City, Kochi 780-8515, JAPAN

E-mail: yamada.atsushi@kochi-tech.ac.jp

Abstract: This paper examines the career choices of fifty-three speakers who have appeared in the "Confidential Records of a Professional", a serialized column in the Nikkei Business Daily, since 2018. Most of the speakers were business managers. I categorized them into entrepreneurial, succession, promotion, transfer, and professional business managers according to their origins, and those who worked as experts were classified as professionals, athletes, artists, and researchers.The majority of the participants were in their 60s, and most of them had a university degree or higher. In terms of first career choice, regardless of classification, almost all chose to be employees. Also, with the exception of a few, they did not choose their career with a solid life plan from the beginning. In more than one-third of the cases, there was no career change during their career, and many of them worked for a long time and were promoted to business managers. This pattern may still be the honor student life. Even if they take over the family business as a successor, they need to make the same major changes as a career change along the way in order for the company to grow. In this respect, it is similar to the entrepreneurial type seizing the opportunity to start a business. In both types, the secret to success is to increase the number of chance encounters and hone one's ability to seize opportunities.